



森山町小学校

電話：076-252-6251

所在地：金沢市森山2丁目13番50号

FAX：076-252-6252

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/moriyama-e/>

校長名：竹中 澄枝

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	44	59	52	68	65	57	5	350
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14

	校長	教頭	教諭等								養護	事務	校務	他	合計	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	他						
職員数	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	4	1	1	1	1	24

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 国語

- ア 既習の漢字を用いて丁寧に書くことは意識づけられているが、漢字の読み書きや言語事項の定着はまだ十分とはいえない。
- イ 話の中心を意識して話すこと、聞くことは少しずつ身に付いているが、自分の考えの根拠を明らかにしてまとめる指導は、今後も継続的に必要である。
- ウ 相手に分かりやすく伝えるために、主語・述語を意識するようになってきたが、主述の関係の理解は十分とはいえない。

(2) 算数

- ア 問題場面を図や数直線を用いて表し、理解するようになった。
- イ 言葉や式、図、グラフ等を用いて、根拠を明確にしながら自分の考えを説明することで、考え方に深まりや広がりが見られるようになってきている。論理的な説明は課題である。

(3) 社会

- ア 都道府県名や地名等、定着が図られた。さらに地図を活用し、地図記号や経度・緯度、等高線などの用語を積極的に使い、地図の利便性を体験させる必要がある。
- イ 複数の資料を関連づけて読み取り、「分かること」をまとめることは十分とはいえない。
- ウ 新聞記事をもとに時事問題に触れ、興味・関心がもてるようになってきている。

(4) 理科

- ア 実験・観察の時間を十分に確保したことで、器具の正しい使い方を意識するようになった。
- イ 観察・実験結果を記録やレポートにきちんとまとめている。科学的な見方・考え方、根拠を明確にした説明が今後も課題である。

2 学力等の現状分析

(1) 国語

- ア 話の中心に気を付けて大事なことをメモを取りながら聞くことができる。
- イ 段落と段落の関係を考え文章を正しく読むことはできるが、要約することが不十分である。
- ウ 相手や目的に応じて、内容を明確にしながら書くことはよくできている。敬体と常体との違いを意識し、注意しながら書くことは十分とはいえない。
- エ 漢字の読み書きや複合語の合成・分解などについては概ね良好であったが、定着には学年間で差が見られる。また、筆順に従って書く意識が低い。

(2) 算数

- ア 基本的な四則計算はできるが、波及的くり下がりや減法や計算の工夫を読み取って活用することは、十分とはいえない。
- イ 身近な「かさ」の量感は、昨年度より良好な結果だが、まだ十分ではない。
- ウ 図形では、円の半径を二辺とする二等辺三角形の説明、数量関係では、二つの棒グラフの関係を読みとって説明することが良好な結果となっている。

(3) 社 会

- ア 方位の教室掲示、地図の活用により、地名など知識の定着に改善がみられたものの、石川県の市町の数、世界の主な大陸と海洋の名称の習得は、十分ではない。
- イ グラフや資料などから項目間の関係を読み取り、説明することが不十分である。
- ウ 環境を守るためにゴミを減らす工夫など、身の回りの問題を意識し、自分たちの問題として捉え、「今、自分にできること」を考えるようになってきている。

(4) 理 科

- ア 電磁石の極の入れ替えや回路のつなぎ方、雲画像の読み取りは良好であった。
- イ ビーカーの表面に付いた水滴の理由を説明することなど、学習で得た知識と日常生活の具体的な事象との関連が十分でない。

3 学力向上の取組

(1) 各教科における指導の充実

- ア 国語・朝学習や授業、活動全般において既習の漢字を用いて丁寧に書くことを指導する。
 - ・考えの根拠を明確に表したり、小グループで話し合ったりする活動を積極的に設ける。
- イ 算数・自力解決において言葉や式、絵図等を用いて考えを表し、根拠を明らかにして説明する活動を意識的・継続的に設定する。
- ウ 社会・教科に拘らず、日常的に地図を活用する。
 - ・二つの資料を関連づけて考えさせるなど、資料を活用し、意図的な読み取りを進める。
- エ 理科・科学的な見方・考え方ができるように、実験からわかる「事実」と「考え」を分けてまとめさせ、根拠を明確にして説明するようにする。

(2) 「学びたくなる・伝えたくなる」ための授業づくり

- ア 伝えたくなる「場」の設定
 - ・学習課題や学習形態、資料提示の工夫をする。
- イ 自分の思いや考えを持たせるための手だて
 - ・実験や観察、体験活動の充実を図る。
 - ・資料やワークシートの活用を進める。
- ウ 「伝え合う」場面での適切な支援
 - ・発言を深める、繋ぐための発問を工夫する。
 - ・思考の流れに沿った構造的な板書を工夫する。

(3) 読書活動の推進

- ア 低中高別に目標冊数やページ数を決め、読書カードに記録することで意欲を高める。
- イ ブックバックを用意して常に身近に本を置き、短い時間にでも本が開けるようにする。
- ウ 学年を指定し、定期的に「おすすめの本」の紹介カードを作成し掲示する。
- エ 健康に関する本や郷土資料を中心とした読み物などを集めたコーナーを新たに設け、読書環境の充実を図る。

(4) 基本的な生活習慣や学習規律の定着

- ア 全校共通の「学習ルール（挨拶、姿勢、話し方・聞き方、持ちもの等）」を設定し、定期的に自己評価を行う。
- イ 挨拶運動に取り組む。（月目標に設定する、縦割りグループ・児童委員会で実施する等）

(5) 家庭学習の時間の確保と定着

- ア 家庭の協力を得ながら、家庭学習の強化週間（学習時間の記録、自身の振り返り、保護者からのメッセージ）を設定し取り組む。

4 その他の取組

(1) ユネスコスクール（「金沢ユネスコスクール推進事業」実践校）

教科との関連を明確にしたE S Dカレンダーを各学年で作成し、E S Dの観点を取り入れた生活科・総合的な学習の時間の実践を行う。

(2) N I E実践校

新聞を活用し、言語活動の充実を図る。